

NHR-15/-15B 取扱説明書

このたびは車いすをお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。お取り扱いになる前にこの「取扱説明書」をよくお読みの上、正しく御使用くださいませようお願いします。

保証規定

- 一. 保証の範囲
1.保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合はこの保証書により無料で修理いたします。
2.保証期間はお買い上げ後1年間です。
3.但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
(a) 取り扱い過誤による故障。
(b) 製品に改造を加えた場合の故障。
(c) 天災、地災等による故障ならびに損傷。
(d) 消耗商品、タイヤ・チューブ
(e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
(f) 保証書のご提示がない場合。
- 4.以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限りです。
5.この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- 二. サービスのご利用
保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。
三. ご注意
保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合限りお買い上げ日より「一年間」無償にて修理いたします。

機種	TE
お客様	様
住所	〒
お名前	様
お買い上げ日	年 月 日
販売店	

白進医療器具株式会社
〒481-8681 愛知県北名古屋市神村字権取35-2
TEL<0569>21-0636(代) FAX<0569>23-2787

車いすは耐用年数5年

を基本として製作してあります。5年経過後使用される場合は販売店または弊社にて点検して頂きますよう、お願いします。

2006.10.500

全車いすに関する注意事項です。必ずお読みください

お読みになつた後、必ず保管してください。

一般的な注意事項！

- 車いすを扱ったり落としたりしないでください。
- 火気を近づけないでください。
- 腰かける部分以外には座らないでください。
- 1人乗りですから2人以上乗らないでください。
- フットサポートに重いものなどを引っ掛けないでください。
- 車いすの乗り降りの際には、必ず左右両輪のブレーキを掛けて固定してください。ブレーキを掛けていても動かし難くなります。
- リクライニング時、ヘッドサポート部に荷重をかけないでください。
- タイヤを持って滑らないでください。(ブレーキで滑ります。)
- 倒れかかるような座り方はしないでください。
- (転倒した車いすは壊れやすくなります。)
- 夜間、雨降りは通行者や車から発見しにくくなりますので注意してください。
- シートベルトのあるものは必ず装着してください。

介助者の注意！

- 車中乗客の身体の一部及び衣服がタイヤ・スロー・キヤスタ、及び地面、建物、通行者に触れたり挟まったりしないよう、車いすに安全に座れているかを確認してから操作してください。
- 介助者は絶対に車いすに乗って介助しないでください。
- リクライニング時は不安定になります。またれかけたため、通行者に触れたりしないよう注意してください。
- 認知症の方の場合は車いすのシート、部品等を飲み込むことも考えられます。十分注意してください。

介助が必要な時！

- リクライニング操作。
- エレベーター操作。
- 車いすへの乗降時(初心者及び重量な方)。
- 急な坂道。
- 凸凹や段差のある場所での移動。
- 踏み切り等の溝のある場所での移動。

走行中身体を乗り出したりして、走行の安全性を損なうことのないように注意してください。

定期的な点検・清掃を！

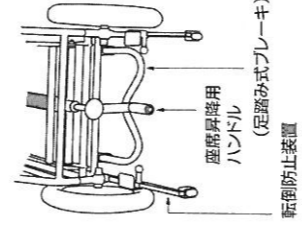
- 中性洗剤を染み込ませた布で、泥やホコリなどの汚れを拭き取り、その後から拭きで洗剤をきれいに拭き取ってください。
- ハンドリなどの表面のキズを見つけた場合は、安全のため紙ヤスリで滑らかにしておきましょう。
- 清掃時には各部のキズ、亀裂、ホリト、ナット類の緩み、タイヤの摩耗状態等を合わせて点検し、履き等があれば締め直しましょう。各ジョイント部への給油も行ってください。

製品を安全にご使用頂くために

- 使用後重大体損は積載物も含んだ重さです。体重制限を守って使用してください。
- 段差や凸凹のある路面等を走行する時は、前のめりにならないように、注意して操作してください。
- 自走用であっても介助用として使用する可能性がある場合は、制動用ブレーキ及びシートベルトが付いているものを選んでください。

SGマーク制度は、車いすの欠陥によって発生した人身事故の対策を促進する制度です。

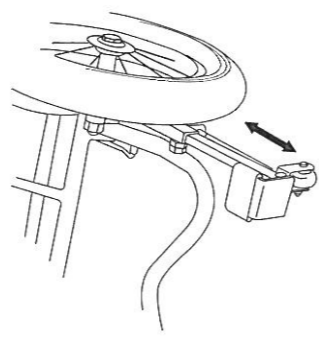
座面昇降機能



操作の仕方

- 座面昇降
- ① 上昇時
- ② 下降時

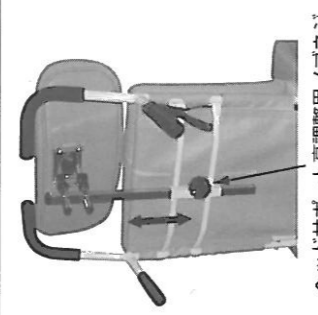
転倒防止装置



操作の仕方

- グレートのブレーキを足で引くことにより、転倒防止装置を引き出すことができます。
- 戻すときは、シルバークレートの足を押し込んでください。

ヘッドサポート



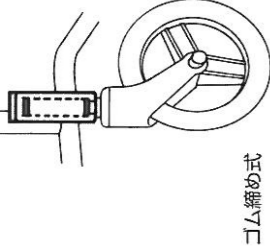
高さ調整の仕方

- ヘッドサポート高調整用ノブネジを緩めて、ヘッドサポートを任意の高さに合わせることでできます。調整後はノブネジをしっかり締め、ヘッドサポートの高さを固定してください。

シート

- ビニールレザー一般的に車いすに多く使用されているシート材料です。裏面はメリヤス裏地でシートの中には芯地を入れてシートの強度を確保しています。

キヤスタ



操作のポイント

- フレームにはキヤスタ軸ハウジングの中でネジを締める事により、ゴムが膨らんで止まる方式です。

△ 注意点

- 段差にぶつかつたり、車いすを高い所から落としたり、前を滑りしてキヤスタから落ちたりするとキヤスタが壊れる恐れがあります。十分注意して御使用ください。
- 踏切等では、キヤスタは溝に対して直角に又、溝の広い場合はキヤスタを少し浮かすようにして渡ってください。又溝に落ちた場合無理に動かすとキヤスタが壊れる恐れがありますのでキヤスタの近くを持ち上げて脱出してください。

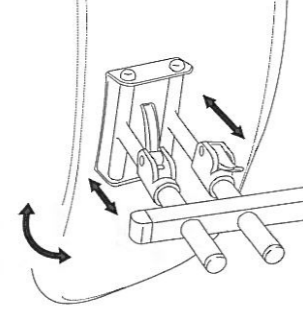
■ 保守点検

- キヤスタが抜け落ちてきてないか。
- キヤスタが緩んでないか。
- キヤスタフォークの歪形、ヒビ、キズ等は大丈夫か。
- キヤスタ輪の摩耗は大丈夫か。

■ 保守点検

■ 角度調整の仕方

- ヘッドサポート裏側の2つのロックレバーを前方に倒すとヘッドサポートの角度のロックがはずれ、角度調整ができます。任意の角度に調整後、ロックレバーを手前に戻し、しっかりと固定させてください。
- ロックレバーのロックがかかった状態で、ヘッドサポートの角度を動かさないでください。故障の原因となります。



■ 保守点検

- 中性洗剤を染み込ませた布で泥や汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。
- シートを止めているネジのゆるみはないか点検し、ゆるんでいる場合は締めてください。

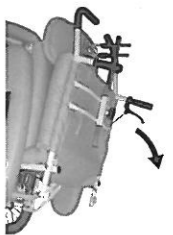
■ 保守点検

- キヤスタが抜け落ちてきてないか。
- キヤスタが緩んでないか。
- キヤスタフォークの歪形、ヒビ、キズ等は大丈夫か。
- キヤスタ輪の摩耗は大丈夫か。

A 車いすの広げ方・折りたたみ方

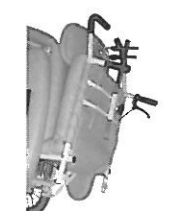
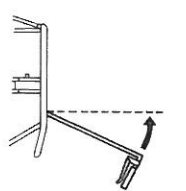
■ 広げ方

△バックサポート固定レバーにより、バックサポートが固定されていない状態での使用は絶対にしないでください。



- ① グリッパを持って背部を後方へ起こしてください。
- ② バックサポート固定レバーを上へ起こし、バックサポートを更に後へ倒しレバーを下へ回転させてレバー受けに当てて固定してください。

■ 折りたたみ方



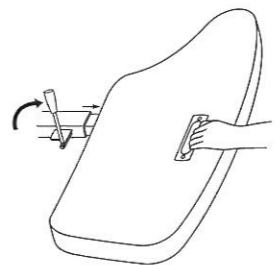
- ① グリッパのリアライニングレバーを握って、背もたれを垂直に起こしてください。

- ② バックサポート固定レバーを回転してレバー受けから外し、上方に立てたままバックサポートを前方へ折りたたみます。

- ③ フットサポートを起こして、たたみます。

B アームサポート

■ 操作の仕方

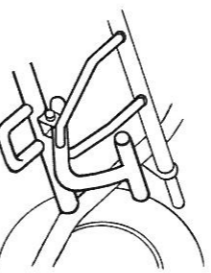


- 下げ方 (折りたたみ方)
アームサポートが落ちないようにしっかりと持ち、アームサポート高調整レバーの先端を前に引き出して、アームサポートをゆっくり下げます。
- 上げ方 (広げかた)
アームサポートが落ちないようにしっかりと持ち、アームサポート固定用のスライドピンが入り込んで、アームサポートが固定されるまでアームサポート高調整レバーを引き上げてください。

■ 注意点

- レバーをそのまま引っぱるとアームサポートが落下して危険です。指等を挟む恐れがあります。アームサポートをしっかりと持ってゆっくり下ろしてください。
- アームサポート固定用のスライドピンが入り込みアームサポートが落ちないようにロックされていることを確認してください。
- アームサポートに腰掛けたり、強い力で押さえたり、アームサポートを持って車いすを持ち上げる等の行為は絶対にしないでください。

■ 操作の仕方



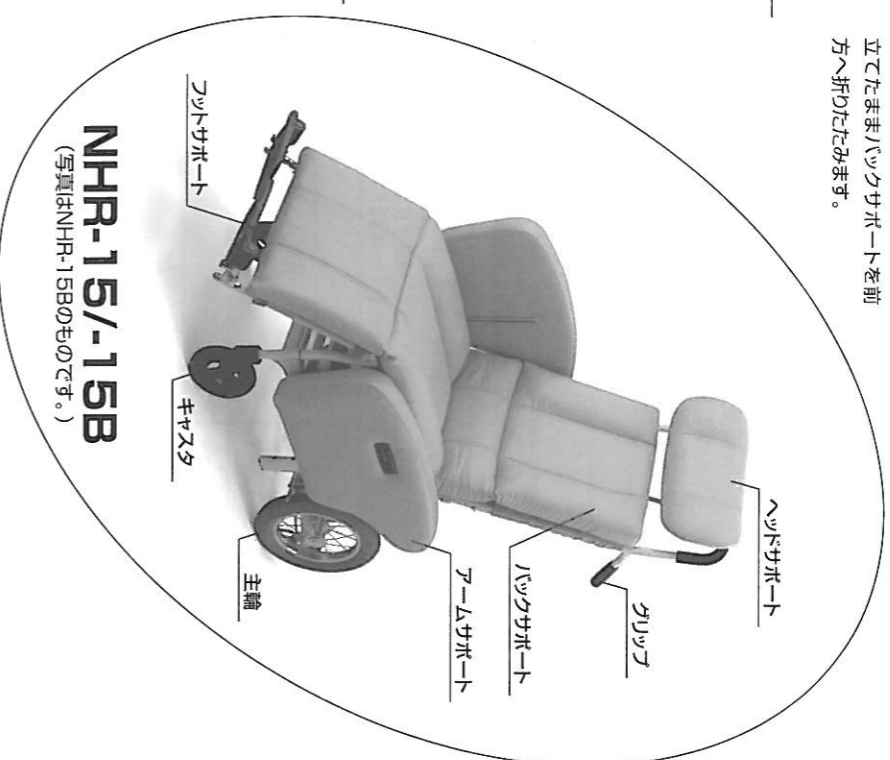
- フリーキのかけ方
ベンダルを足で踏み込む事により、フリーキニューカタイヤを押さええてフリーキがかかります。
- 解除の仕方
踏み込んだベンダルを足のつま先で上へ引き上げて解除します。

■ 注意点

- フリーキをかけた状態で坂を下りないでください。(タイヤ及びフリーキニューカ早く摩擦するので、濡れた路面等で急に動きだす事が有り大変危険です。)
- しっかりとフリーキをかけていても、乗降時などで横から強い力がかかると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車輪止めをしてください。
- フリーキレバーなどに体重をあずけるような事はしないでください。

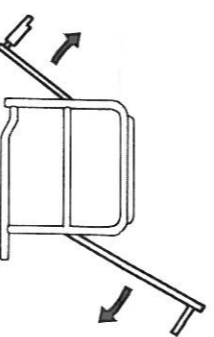
■ 保守点検

- タイヤの空気圧は適切かどうか点検し不足している場合は補充してください。



C グレーキ

■ 操作の仕方



バックサポートと連動して動く
拳上式です。

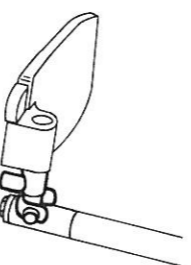
- バックサポートを倒す事によりフット・レッグサポートが上りバックサポートを起す事により下がります。操作方法は⑥バックサポートの説明をお読みください。

■ 注意点

- 乗車者の足がフット・レッグサポートの上にきちんと乗っていることを確認してから操作してください。
- フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
- フット・レッグサポートを強い力で押したりその上に座ったりしないでください。

D フット・レッグサポート

■ 操作の仕方



上下調整ができて折りたたんで収納出来るフットサポートです。

■ 操作の仕方

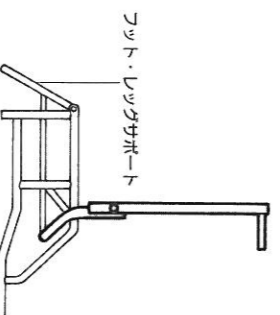
- フットサポートの上下調整の仕方
フットサポート下端の調整ネジを付属のスパチで緩めて、高さを合わせてからしっかりと締め付けます。(上下スライドしにくい場合は調整ネジを下からたたく様にシヨックをあえると緩みます。)
※出荷時は梱包や、安全の関係でフットサポートを外側後方に回転させてある場合がありますので左図のようにセッティングしてください。

■ 注意点

- 調整後はしっかりとネジを締め固定してからご使用ください。
- あまり延ばし過ぎると段差、スロープ等でつまづき事があります。フットプレートが一番低い所で50mm程度あった方が良いでしょう。
- フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。

F バックサポート

■ 操作の仕方



無段階に背角度が調整できる
リクライニング式です。

■ 注意点

- 右側グリッパについているリクライニングレバーをグリッパと一緒に握り後方へ倒し、止めた位置でレバーを離せば止まります。(その際、介助者が胸や肩、腕でしっかりと支えるようにしてください。)
- フット・レッグサポートは運動してしますので同時に作動します。
- フット・レッグサポートと連動しますので、必ず搭乗者の足の位置も確認してから操作をしてください。
- 止めたい位置でキチッと止るかどうかが、使用前に必ず確認してからお使いください。
- 乗車者の身体の一部及び衣服等を挟まないように注意しながらゆっくり操作してください。
- 人が乗っている時に手押しハンドル及びヘッドサポート・アームサポートで車いすを持ち上げたり、押さえたり前を浮す様な事はしないでください。

■ 操作のポイント

- ハンドリムがありませんで本人が直接駆動する事はできません。
- 介助者がグリッパを握り車いすを後方から押すためのものでコンパクトにするため小さく車輪が使われています。

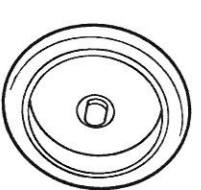
■ 注意点

- 主輪とフレームの間、スロークの間等に指や衣類が挟まらないように注意してください。
- 直射日光のあたる場所、火気の近く高温な場所は避けてください。

■ 保守点検

- タイヤの空気圧は適切かどうか点検し、不足している場合は補充してください。
- 車輪のガタや緩み、スロークの折れ、曲り、緩み等チェックして補修してください。
- タイヤの摩擦をチェックしタイヤの溝が無くなりかけたら交換してください。(修理調整ができない場合は販売店までお問い合わせください)

G 主輪



主輪